

次期（H28～35年度）花巻市男女共同参画基本計画の策定にかかる考え方

H27.9.7 男女共同参画審議会

【資料 No. 1】

これまでの検討

- 花巻市女性団体ネットワークの会からの意見聴取 (H27年1～3月 3回)
 - ※地域婦人団体協議会、農協女性部、母親連絡会、女性センターを実現する会など8団体
- 市民アンケートの実施
 - 15歳以上の男女2,100人 (男女別・年代別)
 - 回収率41.6% (H27年1月)
- 男女共同参画審議会での意見聴取 (H26年10月、H27年6月 2回)
- 男女共同参画基本計画検討委員会での検討 (H27年5月設置、4回開催済、9月までに1回予定)
- 男女共同参画推進員からの意見聴取 (H27年1月、5月、7月、8月 4回)
- 男女共同参画推進幹事会 (庁内) での意見聴取 (H26年10月、H27年5月、7月 3回)

現計画の検証(全体)

- 目標が抽象的、項目が広範囲にわたっている
 - 男女共同参画の必要性を明らかに
 - 焦点をしばって集約してもいいのではないか
- 成果指標は、「花巻市総合計画基本計画」に掲げる施策の成果指標から関連部分を抜粋
 - 男女共同参画とどう結びつけるか
 - 実効性のある指標の目標数値を定めて検証
- 計画期間中に社会情勢が変化している
 - 社会情勢、国・県の動きを見ながら、必要に応じて見直し
- 計画書の存在を知られているか
 - 計画書は見やすいもので、配架方法などを工夫

次期計画のコンセプト(全体)

- 計画をカスタマイズ (地元化)
 - 国の計画ではなく花巻市の計画であること (現実味のない計画は実感が持てない)
 - すべての分野を網羅する? すべての分野に平等に力を注ぐ?
- わかりやすく!
 - 専門用語、役所的用語をあまり使わずわかりやすい表現で
- 親しみやすく!
 - 固いイメージではなく、まずは気軽に手に取ってもらえる姿へ
- はかりやすく!
 - 花巻市で男女共同参画が進んでいることをはかる「ものさし=指標」で

今後のスケジュール

- 男女共同参画審議会での意見聴取 (H27年9月 1回)
- 男女共同参画基本計画検討委員会での検討 (H27年9月 1回)
- 男女共同参画推進幹事会 (庁内) での意見聴取 (H27年10月 1回)
- パブリックコメント実施 (H27年10月～11月)
- 男女共同参画審議会へ諮問・答申 (H27年12月)
- 市議会へ上程 (H28年3月)

【現計画 目標ごとの成果と課題】 <成果> <課題>

基本目標1	<p>男女が互いを尊重し認め合うまち</p> <p>意識啓発 情報提供 DV防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、男女共同参画について言葉も意味も知っている人の割合は前回調査(H15)に比べ2.9%増加。 あらゆる場において男性と女性の地位が平等になっていると思う人の割合が増加。 男女共同参画推進員が寸劇などでPRしている。 地域の会合での役割分担について話をするようになった。男性も胸い担当に積極的に入るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会について知っている人が増えてはいるが、思ったように数字が伸びていない 意識は簡単に変えられない、みんなに同じく浸透していくことが大事→草の根的な活動が必要 男女共同参画は人権の問題 DVの相談体制の充実、周知が必要 DVだと本人が気づいていない場合がある。(高齢者もデートDVも含む) DVの相談をしない人が多い、地元で相談をしにくい 市への相談件数は横ばい(H26:29件、H25:25件)
基本目標2	<p>男女ともに自立し支え合うまち</p> <p>ワーク・ライフ・バランス 子育て、女性の就業 職場の環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育園、幼稚園の認可定員数を増加 (園数43、定員数H18:3,586人→H26:3,765人) ファミリーサポートセンター設置。子育て支援のネットワークづくり、子育て相談の充実 児童クラブ設置数、利用者数ともに増加 (H18:14か所・673人→H26:21か所・884人) 医療費助成の充実、予防接種費用の補助 ジョブ・カフェによる就業相談やセミナーの実施 家族経営協定締結の推進、女性リーダーの育成と支援等による女性の参画の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 「女性が職業を持ったほうがいい」という回答は67.7%(男65.9%、女67.5%)→男女間で差がない 家庭での家事は主に妻が行っているという結果→実際は女性に負担がかかっている 仕事と家庭などとの両立には「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境」、「労働条件面や昇進、昇格の機会での男女差の解消」などを望む声が多い。 女性が仕事を続けていくためには、職場の理解と協力が必要→市内企業のリーダーに職場での男女共同参画についてPR
基本目標3	<p>男女が生涯にわたって健康で安心して暮らせるまち</p> <p>健康づくり、介護 高齢者等の社会参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健推進委員や食生活改善推進員による地域における健康づくりの推進 体育協会等による生涯にわたるスポーツ活動の普及 体育施設の充実(総合体育館、アネックス、総合運動公園、各地区に社会体育館) 介護予防の推進、介護サービスの充実、地域包括支援センターの機能強化 シルバー人材センター、高齢者の雇用拡大促進 高齢者学級等の充実による学習機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 現計画の目標は男女の視点がわかりにくい 各分野において市民全般に関わる部分は各計画で推進する→男女格差の大きい部分について取り組むこと 性と生の重要性をきちんと教える機会が必要 介護は女性がやって当たり前という意識 介護予防教室の参加者は男性が極端に少ない 定年退職後男性の健康診断受診率は女性より低い(H25年:男性55.3%、女性60.2%)
基本目標4	<p>男女ともにいきいきと参画できるまち</p> <p>政策・方針決定 地域づくり 国際的理解・協調</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市政懇談会への女性の参加割合が増加 (H22年:137人・12.33%→H26年:173人・17.47%) 審議会等への女性の登用率 (H17年:24.6%→H26年:29.2%) 女性学級などによる女性の意識向上と人材育成の推進 岩手県男女共同参画サポーターが増加 (H26年までに65人、うち女性59人) コミュニティ会議など地域の会議に女性が入るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 審議会等への女性の登用率は上がってはいるが、ガイドラインの目標値35%には達していない アンケートの結果「役員などには男性になるほうがいい」と思っている人が多い(男48.2%、女49.7%) 「女性はでしゃばるものではない」という意識がある(男27.3%、女31.5%)→女性のほうが多い 女性が役員などになることについては、女性自身にも課題がある 社会活動にもっと参加できるようにするためには、関心と意欲を持つこと・家族の理解や協力が必要

【次期計画に盛り込むポイント】

- 男女共同参画に関する意識啓発が十分ということはない
 - 繰り返し、継続的な啓発
- 意識の低い層の底上げ、無関心をなくすることが大事
- 意識の高い人は推進する側に
- そもそもDVとは何か →正しい理解と防止
- 相談体制、県・近隣自治体との連携強化

- 女性が働き続けるために職場の理解と協力が必要
 - 企業等への働きかけ
- 育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備
 - 制度の充実、制度の周知
- 労働条件面や昇進・昇格の機会での男女差の解消
- 保育・介護サービスの充実

- 性と生の重要性を教える機会
 - 正しい理解・発達段階に応じた教育
- 男女間の格差という視点で
 - 高齢者等(退職後の男性も)の社会参加に男女差はないか

- 地域や職場の方針決定の場への女性の参画
 - 男女ともに理解が必要
- 女性が意欲を持って仕事や社会活動ができる条件づくり
- 能力の向上、リーダー育成
- 審議会など市の取り組みに関心を持ってもらうことが必要

【次期計画 基本目標の案】

- 基本目標1
- 男女共同参画の理解の促進
 - 意識啓発
 - 教育・学習機会の拡充
 - 情報提供
 - 国際的協調
- 基本目標2
- 男女の社会における参画の促進
 - 政策・方針決定(行政、地域、雇用の場)
 - 防災、地域、健康づくり
 - 能力開発
- 基本目標3
- 男女のワーク・ライフ・バランスの推進
 - ワーク・ライフ・バランス(両立支援、啓発、事業所への働きかけ)
- 基本目標4
- 男女間の暴力の防止と根絶
 - 教育と啓発
 - 相談窓口の相互連携

※DV防止法に基づく「市町村基本計画」とする